

令和 6 年 6 月 10 日 新 見 市 議 会 議 長 殿 報告者名 産業建設常任委員会 委員長 岡 崎 裕 生 市議会一般会議実施報告書	
開 催 日 時	令和 6 年 5 月 29 日 (水) 14 時 00 分～ 16 時 00 分
開 催 場 所	新見商工会議所
団 体 名 代 表 者 名 参 加 者 数	新見商工会議所 会頭 田中 康信 5 人
出 席 議 員	土屋 将、林 司朗、峠田 一也、仲田 芳人、西川 照雄、 岡崎 裕生、宮本 英基、小河 俊文、橋本 亨子、 古川 英明、榎 日出男
意 見 交 換 の 内 容	○開会あいさつ 榎 日出男 新見市議会議長 ○団体あいさつ 田中康信 新見商工会議所会頭 ○出席者自己紹介 ○団体からの趣旨説明等 ○意見交換 ※詳細は別紙のとおり ○閉会あいさつ 古川 英明 新見市議会副議長
議 員 間 自 由 討 議 の 内 容	なし
備 考	

【意見交換の内容】

テーマ：本市の課題と経済ビジョンについて

※ 要点筆記による

新見商工会議所の意見

※田中会頭が、新見市経済ビジョン策定についての資料を基に説明された。

生産年齢人口の将来予測は2050年に6,458人の予測。5年前の予測に比べると減少率は改善しているものの、公立大学の4年制化が影響しているものと思われる。

全ての業種において人手不足が課題であると考え。中でも、特に建設業には大きな課題となっている。企業にとって、マーケットの需要減少と人手不足は深刻な課題であると捉えている。「人口減少」は新見市も企業も共通の課題であり、大きな変革が必要である。

公民館に数億円をかけたり道路の新設をしたりする方向ではなく、人口を増加させる施策を最優先してもらいたい。若者の可処分所得の増加、充実した子育ての環境、魅力的な町などの施策を展開してはどうか。

若者定住を考えると、可処分所得を増やしていかなくてはならない。「金の出入り」を改善する視点が必要である。所得や交流人口が増えればファーストフード店や有名チェーン店も自ずと出店される。

新見の経済をバケツに例えるなら、流れ込む量を増やし、バケツの穴をふさぐことで給与所得は増加する。産業連関表によると、本市の対外収支は年間推定137億円のマイナスになっている。地域ポイントで7,800万円を市内経済に投入しているが、経済の流量を増やすためには、対症療法的な「フロー」ではなく、根本的な「ストック」と「仕組み」に投資するべきである。

さらに公共事業においても、工事価格の安い市外業者へ発注することは税金の有効活用になるかもしれないが、市外業者へ発注することで経済のバケツから市外に金が漏れ出すことになる。誘致企業についても同様で、利益は本社が吸い上げてしまい、地元にも再投資されない。企業誘致の功罪も考える時期にきている。

補助金がないと成り立たない観光施設は撤退するなど、公共施設も人口予測に沿って縮小すべきである。観光業については、外国人観光客（インバウンド）を狙った取り組みを強化すべきで、新見市にはおいしいA級グルメが多く、魅力は高い。

可処分所得の観点から考えても、地場産業を地道に育てていかなければならない。

今後の中心市街地の在り方については、交流人口を増加させることや、施設を便利でコンパクトなものに再編することが必要である。人員が削減され、機能や稼働率が低下している施設や営業所が多い。銀行・スーパー・会議施設・保育施設や遊び場などが近距離にあり、歩いて何でもそろえるような機能面を視点にして中心市街地構想を策定してほしい。

作品搬入や収蔵機能が低下している美術館は、集客力をさらに高めいくために著名な建築家による設計でリニューアルしてもよいのではないかと。あわせて、来館者に周辺で消費（飲食・宿泊・土産）してもらうための仕組みづくりや立地にも配慮が必要ではないか。

婚活イベントについては青年部が取り組んでいる。1日だけのスポット的なイベントでは成婚までは難しい。1つの目標に向かって長期的に関われるようなイベントを市としても考えてほしい。

もっと市内高校の魅力化を図ることが必要である。共生高校の魅力化に市を挙げて取り組んではどうか。特進クラスの設置や物づくりへ特化する等の取り組みで、市内の中学生が進学してくれる学校に生まれ変わるのではないかと。思う。

就職では、若者が県南に流出するので、地元企業と交流する場をもっと増やすべきである。

出席議員の意見

※説明を受けた後の、議員側の質問や意見、感想の主なものをあげた。
() 内は田中会頭からの答弁。

インバウンドの可能性を拡大することが所得増加につながると思う。千屋牛・ブドウ・キャビアワイン・清酒などを強みとして、一泊10万から20万円の宿泊ができる施設を整備するなど、新見の可能性を広げていきたい。石灰産業とレストランや温泉などを組み合わせると、さらに魅力化できるのではないかな。

以前視察で行った鹿児島県志布志市の株式会社「さかうえ」の専務は、これから農業で生き残るためには、経営を学ばなくてはならない。高校でもこれを学べるようにすべきで、産業界と高校が相互に連携し合わなくてはならないのではないかな。

観光について、オーベルジュを整備し、市内ブランド産品を生かした特化した宿泊ツアーができるようにしていきたい。

新見市経済ビジョンについては、これから先が大切だと感じる。議会としても課題は認識しているのでしっかりと行政にも訴えかけていきたい。

官民の連携が重要ではないか。(それに対する答え：民間として何ができるか。小さな同業事業所を集約して生産性を上げていかななくてはならない。)

市内には中心市街となる可能性がある場所がいくつかあるが、新見駅周辺に絞ったコンパクトシティの構想を実現させていきたい。

結婚推進については、商工会議所青年部で取り組まれていると聞いたが、是非、引き続き出会いの場の創出を行っていただきたい。

住みたいまちにするためにも大なたを振って事業推進していくよう求めている。

観光について、美観地区はにぎやかで休日の観光客の入りがすごい。交流人口を増やすためにも、集中的に予算を使わないといけないと考えている。

農業については、1反2反では経営が難しい。10年先を見通して、農業で生きていけるようにしていきたい。新見の基幹産業である農業の強みを生かして「稼げる農業」に結びつけたいが、現状の農政との矛盾があり厳しい状態にある。まさに、「どうすれば」よいのか思案にくれる状態である。

医療の問題についても、国政との関わりで大変な状態である。看護師の確保が厳しいと聞いている。急性期を治療する大病院が必要な患者は一部で、ほとんどは市内の病院や診療所に通院している。なんとか改善したい。

「にいみ市議会だより」令和6年5月号の「市民の声」のコーナーで次のような訴えがあった。『市内の企業は、子育てや介護に寛容な考え・制度に欠け、行政の働きかけも乏しく、昭和の体質にあります。これでは若者が新見に住むメリットはなく、企業は人手不足に陥り、経済活動は弱まるばかりでしょう。官民でワークライフバランスのとれた職場づくりに取り組み、若者も住みたい生活しやすいと思える魅力的なまちづくりを進めてほしい。』と。

この声に応えていかななくてはならないのではないのでしょうか。